

CASBEE® 名古屋

■使用評価マニュアル: CASBEE-運用(第2019年版、名古屋中核都市環境形成推進機構環境マニュアル2019) 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	名古屋大学(東山)地域連携グローバル人材育成拠点施設新築工事	階数	地上9F
建設地	名古屋市中千種区不老町1番他16筆	構造	S造
用途地域	第一種住居地域、準防火地域	平均居住人員	1,800 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年12月 予定	評価の実施日	2021年1月15日
敷地面積	243,660 m ²	作成者	
建築面積	4,843 m ²	確認日	2021年1月22日
延床面積	17,053 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
= BEE1.9 ★:S:★★★★★ A:★★★★★ B:★★★★ B:★★★ C Q 環境品質 環境負荷 L	☆☆☆ 100%超:☆☆☆ 100%:☆☆☆ 80%:☆☆☆ 60%:30% 標準計算 ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外のオンサイト手法 ④上記+オフサイト手法 このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質		
Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.3	Q2 サービス性能 Q2のスコア= 4.1	Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 4.1
LR 環境負荷低減性		
LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.5	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.7	LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.5

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
1.異分野間連携を促進し、高機能・高柔軟性を実現する“知の拠点” 2.交流の連鎖を生み出す“プラットフォーム”とキャンパスの新たな顔づくり 3.持続可能性を追求したキャンパス 以上の3つを重視した計画。	大学の研究実験棟と福利厚生棟という特性を考慮した建築・電気・機械設備計画。	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
遮音、温熱環境、光・視環境、空気質環境に配慮し、快適な空間を計画。	機能性、耐用性・信頼性、対応性・更新性に配慮し、維持管理しやすい施設を計画。	周辺の景観とバランスよく調和するデザインを計画。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
効率の良い設備計画により省エネ化を図る。	有害物質を含まない建材を選定。	雨水流出抑制の対策を実施。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

名古屋大学(東山)地域連携グローバル人材育成拠点施設新築工事

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル:

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.4
LR1	エネルギー	3.5	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	0.0	0	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.075	
2. 自然共生				3.8
Q3.1	生物環境の保全と創出	4.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	4.0	0.045	
3. 循環型社会				3.7
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.9	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.3	0.028125	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.4



2. 自然共生

評価点 = 3.8



3. 循環型社会

評価点 = 3.7



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。